

BEYOND THE MUSIC ROOM

①1975 年、私はヴァンクーヴァーでの大学教員としての生活を終え、見捨てられていた農場に住むためにオンタリオ南部北バンクロフトに移り住んだ。②ここに私は十年間ほどを過ごす家を構えたのだ。③私はこれまで田舎に住んだことがなかったので、大きな期待をもって移り住んだ。④著作や作曲のために、大学で教えていた頃よりも多くの時間が必要になったのだった。⑤それに、私は教えることに飽きてきてもいたので、辞めるべきだと私は決心したのだった。

⑥田舎で、私はより自然のサイクルに近い、全く新しい生活リズムを学ぶことになった。⑦私は‘私の’100 エーカーの土地を数えきれないほどの動物や鳥たちと分かち合うことになった。⑧狼の遠吠えを聴くこともあったし、時にはクマやシカを見ることもあった。⑨季節の変わり目は絶えることのない魅惑の源泉となった。⑩サウンドスケープは人間の騒音によって妨害されるというのが原則である。⑪もちろん、音楽上の仕事については連絡を取ることは続けていた。⑫しばしば友人や学生たちが訪ねてきた。⑬月に一度は車で約 4 時間のトロントに出かけたし、定期的にもっと遠くへ、アメリカやヨーロッパへと旅することもあった。⑭だから私は隠遁生活をしていただけではない。⑮しかし私が田舎で過ごした時間は、私の生き方を大きく変えたし、これらの変化は私の書く音楽同様、エッセーにも反映されている。

BRICOLAGE ブリコラージュ

① 音の彫像をつくるという考えは、実際にそれを作るその日まで私にはなかった。②もちろん私は他の人々の活動（合衆国のマッケンジーやフランスの Baschet 兄弟）のことは知っていたし、博覧会などでその作動の様子を数回見たり聞いたりしてはいた—もっとも聴くというよりは見たというほうが正確だった。

③私の到着より前に引っ越した前の住人である農場主は、納屋の床にがらくたの鉄くずを放り出していった。④ある日、私がボロボロの納屋を掃除していると、隣人であるエリシャ・マクドナルドがやってきた。⑤彼は壊れた破片をあれこれと拾い上げていたが、そのうちにねじれた金属のそれぞれが何なのかを私に教えてくれた。「あれは cream separator から外れたんだ、これは刈り取り機のガード（危険防止装置）だ、おい、ここを見ろよ、円形鋤のプレートだぞ。」⑥私は彼が教えてくれたその破片を拾い上げて、まとめて放り投げた。⑦奇妙な鉄やニッケルの破片はどれも錆だらけだった。⑧しかしその時、かけらの 1 つが（エリシャはまぐわの歯だと言っていた）突然澄んだベルのように鳴ったのだ。⑨私はちょうどその部位を持っていたに違いない。⑩エリシャにはすぐにその音がわかった。⑪「お前さん、そいつでいいディナーベルが作れるな。」⑫それから彼は 78 歳にしてはとてもしっかりと立ち上がって、いつもの大きいけれど哀感のこもった声で「こりゃあ全部骨董品として売れたかもしれねえな、ここじゃもう使えねえけどさ」と言ったのである。

⑬その年、Murray Geddes はトロントから 2 週間ごとに作曲の勉強をするために 200 マイルの距離を車で通っていた。レッスンのやり方は夕食の間話をしたり、森を散歩したりするものだった。

た。⑭次に彼がやってきた時、私は彼にこのがらくたで“sound sculpture”を作ってみないかともちかけた。⑮私たちは古着を着て、それぞれの金属の破片の響きを確認することにした。⑯これをするためには、その部位を捜しあてなければならぬ。⑰もしその部位と部位の間の部分であったりするとまったく響かないこともあって、その部分はほんとに沈んだ、鳴り響かない音なのだ。⑱棒と管の中の一番大きなループは床の真ん中であって、そこは避けられていた。⑲まっすぐの破片で一番いい部位が最後から4分の1か5分の1くらいのところにあった。⑳それを見つけるには、棒は2本の細い支え（指か何か針金のようなもの）で固定されなければならず、そうすることで前後に移動して持続的に透明な響きを獲得することができるのだ。㉑分厚く曲がった金属片の部分には多くの工夫を必要とすることは想像に難くない。

①Geddes と私は面白い破片を見つけた。私たちはそれを注意深く納屋のたる木からつるして、回転したときに他の破片にふれるようにした。②まもなく私たちはたくさんの種類の音を手に入れて、どのように全体を作動させるか考え始めた。③風を使うなら、設置する場所を考えなければならないし、野原を渡る嵐から水の力を使えるかもしれないなどと考えてみたりしたが、ついに私たちは振り子を動力源として使うことを考えついた。④大きな岩がロープで結えられ屋根の梁からぶら下げられた。⑤誘導の針金が振り子のロープから彫刻の違った部分につながって、これが他の部分の動きを導くことになる。⑥いったん回転を始めると他の部分に接触しながら少しずつ全体の構造につながり、リズムや順序を固定することなく万華鏡の効果のような動きを作りだしていく。⑦誘導の針金は振り子をゆっくり引っ張って、常に事象の変化で秩序とダイナミクスを作りだす。⑧その音は驚くほど変化に富んでいてほんの少しの調整で振り子の動きが継続している間中、響きがうまく分配されるように工夫されている。⑨この彫刻は、振り子をうまく押すと10分くらいは鳴り続けさせることができた。そして雁の群れが渡り、落ち葉のささやきが季節に溶け込んでしまうまで美しい音の効果を捧げ続けた。⑩しかし、冬は彫刻には過酷で、春には納屋の床にその残骸だけが残されていた。

⑪その春、私は Yehudi Menuhin から C B C で計画している8時間の‘The Music of Man. というタイトルのテレビ番組について手紙をもらった。⑫何年間も Yehudi は私が統括していたサウンドスケープ研究のきわめて重要な支援者であった。⑬私たちは二人とも騒音公害のなりゆきについて大変憂慮していたので、広く一般にこの危険性に気づいてもらいたいと思っていた。⑭Yehudi はサウンドスケープ研究が反騒音に対して動き出して、地域社会の音デザインに創造的に住民が参加することに励みとなる肯定的なテーマであることをよく理解していた。⑮彼はこの問題について、このシリーズの中で私と対談することを望んでいた。⑯プロデューサーがまもなく私に連絡をとって概要を知らせてきた。⑰「肘掛椅子の対談はごめんなんだ。」と番組プロデューサーたちとジョン・トンプソンは言って、この問題を進展させて解決してくれる人間はいないものかと私をじっと見つめたものだ。

①もちろんスタジオじゃないですよ、と私は繰り返した。どうして外じゃだめなんですか、対話のハイ - ファイのサウンドスケープとうまく結び付けられるじゃないですか。

② いですね、とトンプソン氏は言って思慮深く付け加えた。「雨の場合はどうします？」

③納屋に入ればいいですよ、と私。

④でも動物がいっぱいいるでしょう、カメラマンを蹴ったりしませんかね？私が思うに Yehudi は…

⑤動物はいませんよ、鉄くずの山があるだけで。

⑥見場のいい背景が必要なんですよ、何かちょっと感じのいい、ね。

⑦私がなんとかしましょう、と答えたものの、撮影日に選ばれた6月のその日まで3週間しかなかったのである。⑧私は友達のローズマリー・スミスとハリー・マウンテンに電話して音の彫刻を作ってみる気がないかと尋ねた。⑨ローズマリーは作曲家で、彼女のボーイフレンドは彫刻家だった。⑩ここに来る途中で、彼らは防腐性のアルミニウム線を見つけてきていた。⑪私の気持ちとして、今回は作成したものを簡単に壊してしまいたくなかった。⑫私たちは前回と同じように金属の破片をたる木から前にあったところに吊るすという作業を開始した。⑬これは前の彫刻とするとより複雑で、納屋の中心に全体を広げるのに3日かかった。⑭また私たちが音の範囲を広げようとしていたところ、土地の農家が所有している大きな鋸の歯を提供してくれた。⑮私たちは作業していきながら、この棒の破片の仕掛けを動かすための仕組みを明らかにしていた。⑯最初、私たちは冗談のように私とメニューヒンがシーソーに座って、CBC のカメラが上がったり下がったりしながら私たちが話しているのを撮る、というようなことを考えていた。⑰そこで、より面白くなるように私たちはシーソーを作ることにして、納屋の背後から全部の長さに補助のワイヤーを張ろうと真剣に取り組むことにした。⑱すべての振り子と誘導のワイヤーから動くように吊り下げられた仕掛け（簡単なシーソーのしかけで、重くなり過ぎないように留意してある）は、シーソーの動きで前後に動いて、ほとんどはでや他には様々な小さな金属のかけらでできた振り子が、たる木から吊り下げられたたる木が大きな金属の的（まと）をたたく。⑲図表で彫刻の改定版を簡単に示しているが、すべてを組み込むことはできなかった。⑳最初の音彫刻と比較すると、今回の音のテクスチャーはとても緻密になっている。㉑シーソーが動くとき音がで、止まると音も消えていくというように作られている。㉒ここで問題なのは、仕掛けをそのままにしておくと、何もかもが一度にダメになってしまうということだ。

p. 299 line1

解決策のひとつは、サウンドオブジェクトの効果的なポイントに数本のワイヤーを結び付けることだ。これらはちょうどもっと大きな金属に軽く触れるように曲げられている。そしてわずかな動きがある間は、それが（金属を）擦るので（こするので）サウンドオブジェクトの中には（その響きが）残されていることになる。②これらの繊細なささやきは私のお気に入りだった。

私が特に好んだのは、二つに切断された鋸*から出る音だった。④両方とも 5, 6 フィートの長さで同じように稼働する。片方の端はワイヤーでたるきに結び付けられ、もう片方は誘導ケーブルに結び付けられている。⑤scraper*が真ん中の鋸（のこぎり）の端につるされ、これもたる木に結び付けられる。⑥先端に私たちが取り付けた導線を押したり引いたりすると、胴のあたりの動きで scraper に示したもののすごい音で刃に沿って作りだされる。⑦ なぜなら scraper ものこぎりの先端も（両方とも長いワイヤー）で固定され、まるっきり予想できないリズムのはずみで起こる絶妙なグリッサンドに到達するのだ。⑧数種類の長さや厚みのあるパイプが、各々の先端に注意深くハンマーでぶら下げられ、イギリスの教会の鐘の音の変化とほとんど同じような、異なるピッチの音の変化の進行を作り出す。

⑨私は古い缶が曲げられた屋根用のスチールをこするのが好きだった（図の左側）。というのはひっかく音というのは、大抵のハンマーでつくられる衝撃音に対比させるのにいいのだ。⑩また左側に美しい効果を上げる細いワイヤーの絡み合った（からみあった）結び目が上下する垂直の線があるが、それは組み合わされた二つのミルク用のバケツの片方の底を大釘がこすって床に届く前にバンバンと叩くのだ。

⑪私は金属が錆（さび）についていることで、それらの価値を対比させるために活用することを試みた動くパーツが非常に多くのキーキーという音を結果的に生じさせたことに言及しておかなければなるまい。⑫まったく異なった音色と調性がシーソーに取り付けたポプラの若木によって供給され、乗り手の頭の上に幅の広い弧を描いてその葉をゆさぶった。

⑬古いピアノの弦に自由に踊る数個の釘は、Yehudi を特に喜ばせた。「ピアノの扱いとしては完ぺきだな」とヴァイオリニストは嬉しそうに検分した。⑭それから、音楽と環境について話し合いをした後、彼はひょいと座って「もう一度やろう」といったものだ。

p. 299 line 39

①私は納屋にやってくる子どもたちが、このサウンドオブジェクトをいろいろな方法で破片を鳴らすのを見てきた。②そうすると、このような彫塑の既製品を遊び場に設置するのも価値があると考えて制作しようとする人がいるかもしれないし、この論文を読んでやってみようとする人がいるだろうということを私は予想してみる。③私はそれには賛同しない。なぜなら作りあげられてしまったものは想像力を束縛してしまうのだ。④それが教育的に有効なものであるためには、人がそれを規格品のパーツやセットではなく、粗末な材料から作らなければならない。⑤これが想像力を刺激することなのだ。⑥それは指導できないことだ。⑦ 作り手は、どの部分から最もよい音を見つけることができるか、どんなふうに編成を組み合わせるかを学ぶだろう。⑧またそれぞれの部分が他の動きにつながる仕掛けをつくることでバランスのとり方を発見し、機械についても多くを学ぶだろう。

⑨正直に言って、私は現代の街の学校で満足のいく音の彫刻ができるとは思わない。⑩同様に、

②Elijah MacDonald は何度も音の彫刻を見たり聴いたりしにやってきた。③彼は子どもたちが
やったように音を出すことはしないけれど、それが動いている時にはいつも寛大に微笑んでいた。



①長い間、音楽教育は主として子どもの練習とされてきた。②時にこれは個人的な教授や学校の授業任せになってきた。③一般的に5, 6歳に始まって、たいてい思春期ごろには終わるのだ。もし生徒が特別の才能を表わせば専門的な教育について考えられるかもしれない。④その後は音楽のレッスンは専門家の一員として猛烈になる。⑤残りの生徒たちにとって音楽教育は始まった時と同様に突然終わる。

⑥従って教師の訓練も独占的にどのように子どもたちに教えるかということに関わってきた。⑦教育学的な方法は子どもたちに学びのパターンを強調し、教師たちには子どもの能力を身体上と概念上の教材の紹介の方法を示すのだ。⑧そこで私たちは簡単な歌かシェイカーかガラガラで伴奏する五音の課題で始めて、(計画通りに進んだら) ブラスバンドかオーケストラで、特にブロードウェイの曲と簡単なクラシックの曲で終わることになる。⑨これは単に簡単なものから難しいものへという進歩ではないし、子どもの方法の考え方から青年のそれへと進歩でもない。*

p. p302~303

⑩また、教員を養成する施設では暗黙のうちに、教師は子どもたちを教えるのには学校という(他の場所とは全く別の環境)、印刷された音楽と、視聴覚機器と、多分楽器で装備された音楽室というもののグレードを信じるようにと強調している。

⑪*むしろ私たちは若者たちが音楽に熟達すべきなのかを考えた方がいいかもしれない。⑫ここは、学校教育の中に取り入れられたために、どれほど本当の音楽の力が骨抜きにされてきたかを討論するのに適当な機会ではない。⑬ちゃんとした音楽だけが私たちの音楽計画にあることを許されるので、ここにはヘヴィーロックも思わせぶりの不協和音も神聖な骨を叩くことも、音の魔法もない。⑭このようなものが存在することを知ってはいるが、私たちの音楽教育では、ストレスとなるような事柄、気取った姿勢、読譜の技能、見解、名声などを含む行儀のよい課題を否定し、とりわけ音楽表現の改善に注目する。⑮これは、いかにアポロ的な学校のカリキュラムにディオニュソス的な課題を適合させるかという方法である。

p. p303~

①多くの他の教科の専門職と同様に、教師たちは大学で教えられたとおりにたくさんの付属品に頼るようになる。②それなしには彼らは教えることができない。③私にはよくわかる。④私は、教員養成学校の卒業生たちが、家庭のように準備された、郊外の中流階級の、大抵はきれいで清潔な学校の顔ぶれとして仕事を始めるのを見てきた。* ⑤もし彼らがそのような環境を見つけることができなければ、彼らは意気消沈するか、あるいは(その)厳しさで成長する。⑥教え込むことができそうな子どもたちだけを標的とする考え方(の人たち)は、今日生じている好機に気づいていないのだ。

⑦社会の大きな変化は、これらの問題に好機をもたらしている。⑧ほとんどの文明社会においては、出生の割合は低下し、それは人口の高齢化が急速であることを意味しているのだ。⑨人はもっと長生きするようになる。⑩大人はより早く引退する。⑪多くは新しい使命や趣味を学ぶために学校に戻る。⑫大人も子供も含む大量の移民がいくつかの国で目立ってきている。⑬田舎の地域社会が年配の退職者で無気力になっている間に、街の通りは高校の中退者で溢れてくる。

⑭私たちに必要なのはもっと地域の音楽に的確に生气を与えることのできる新しい先生だ。⑮どんなふうにもこのような元気のない意気消沈した人々のグループに音楽を教えたらいいだろう。⑯このような授業は新しい教育学的な戦略を呼び込む。⑰あなたの子どもが老人の家を訪ねたり、以前のようにコミュニティセンターに行くことを期待するだけでは十分ではないのだ。⑱あなたは 70 歳の歯の抜けた老人にトランペットの吹き方を教えたくないだろうし、どんな大人のグループにも Good Morning Mr Sun を歌うのを無理にやめさせることもできまい。⑲未だに音楽が表面上は人生における刺激であり、元気づけるものであるのなら、私たちは無数の見捨てられた人々のグループのために正しい教授法を発見するしかない。

⑳この論文の残りは、これらの環境の替わりとなる田舎のコミュニティでの個人的な体験の記録である。

*㉑私はカナダのような豊かな国で、創造的な音楽教育が流行らない理由はそれが高価でないからだという結論に達した。㉒それよりも必要なことは何かを想像することなのだ。㉓このことに子どもたちは簡単に反応するのだが、教師たちはいろいろな道具に慣らされてしまっている、(道具なしでは) どうすることもできないのだ。

p. p. 304~305

①Maynooth は Algonquin 公園から遠くないオンタリオ南部の小さな村です。②田園地帯はほとんど美しい森と点在する湖に取り囲まれています。③貧しい自作農が少しいますが、主な就業状況は林業と鉱業での雇用です。④それでも職につけない人々がたくさんいて、州政府によって経済的開発の遅れている地域として指定されています。

⑤この地域に落ち着いてから約 1 年も経ったころ、私は妻と時折農場から数マイル登ったところにある小さなルーテル教会に行くようになりました。⑥このことの動機は宗教的というより付き合いのためだったのです。⑦誰もが荒野と呼ぶような環境の場所に長く住んでいると、'bushed.' になる危険があるのです。⑧最も近い隣人が 1 マイルも先に住むという場合、人との接触の必要性が強くなってくるのです。

⑨ルーテル派教会に属するほとんどの会衆は、北部ドイツとスカンジナビア移民の子孫でその表現法は頑な(かたくな)とでもいうべき傾向にありました。⑩私はあの教会の雰囲気や暖かなものとは呼びませんが、私たちに地域の隣人を知るという経験をさせてくれたのでした。⑪私はバッハのコラールでいっぱい、ルーテル教会の讃美歌集が好きだったし、気持ちのよいバリトンで歌う牧師の礼拝を楽しんでいました。⑫会衆の歌はおそろしいものでした。⑬70 代の老婦人がオルガニストで、ほとんど耳で?(played by ear) 演奏しました。⑭彼女はどの讃美歌でも最初の旋律のあとに長く休むという癖があって、ヨーロッパのルーテル教会では聴いたことのある、明らかに古臭い変わった効果をあげていました。

⑮初めのうち、私は地方の人に理解されたり、その考え方に慣れてしまうのが怖くて、音楽家で

あることを隣人には言うまいと思っていたのです。⑯田舎の人たちにとって、音楽家というのはトロンボーンの修理やピアノの調律ができて、教会で結婚式のヴァイオリンやハモンドオルガンが弾けるというような、限りなく（有益な）供給源なのです。⑰曲を作る専門家という考えは、彼らの経験の領域にはまったくなかったのです。⑱どこかで Margaret Mead が「バリでは芸術という言葉は知られていない」と言っています。⑲Monteagle Valley でもそうで、私は隣人たちがその言葉を使うのを聞いたことはありませんでした。

⑳しかし誰も匿名で生活することはできないわけで、私の職業は明らかになりました。㉑私は教会の音楽を手伝うことを頼まれたのです。㉒躊躇したのですが、最終的には歌のためになるならと助力することにしました。いずれにせよ、少しの間なのですから。㉓私は町の優れた合唱団のメンバーで、声がアルト、テノール、バリトンと変わって卒業したのだし、コンセルヴァトリーの和声の練習で讃美歌のほとんどを知ってました。

p305

① 聖歌隊の練習が発表されました。②私は最初の練習のことを鮮明に覚えています。③6人の日曜日の正装に身を包んだ人々が集まりました。④最年少は6, 7歳の少女で、最年長は60歳の婦人でした。⑤二人の男性がいました。⑥私は楽譜の読める人が何人いるか聞きました。⑦ひとりの婦人が手を挙げました。⑧あとで彼女が嘘をついたことがわかりました。⑨また一人の男性はまったく字が読めないこともわかりました。⑩彼の妻は控えめに前もって彼の讃美歌集のページをめくっていたのです。⑪私たちはよく歌われる曲から始めました。⑫よく知っている讃美歌を歌いながら、私はメンバーと一緒にスタートさせることと拍子をとらせることに専念しました。⑬練習は明らかに楽しかったようで、2, 3週間後には聖歌隊は15人に増えていました。⑭毎回練習が終わると、婦人たちが持ち寄ったたくさんのサンドイッチやケーキが広げられました。⑮それは男性陣の一人が「ここに来るのは、ティーパーティじゃなく、音楽を学びに来ていたと思っていたがなあ」と言いだすまで、数か月続きました。⑯その後サンドイッチは出てこなくなり、それは悪いことではなかったのです、というのはそれを食べるのに練習時間の半分以上が費やされていたのですから。

⑰私は普段の練習に関しては容赦しませんでした。最初は出席者が気まぐれで、そうしなければならなかったのです。⑱干し草作りのような季節的農作業は予想されとしても、練習に行こうと出かけたメンバーが途中で友達に会ったからと魚釣りに行ってしまうのです。⑲私は誰であれ、正当な理由なしに3回欠席したら追いつくぞと告知し、実際に一人の男性をくびにしました。㉑少しずつメッセージは浸透していきました。

㉒この頃には、聖歌隊を分けて歌わせていました。㉓私は一番好まれた讃美歌のアルト、テノール、バスの旋律をテープに録音し、各週メンバーの一人がカセットレコーダー（これは聖歌隊の基金で買ったもの）を練習のために借りて家に持って帰れるようにしました。㉔クリスマスが近づいてきて、全キリスト教会のコンサートが提案されました。㉕カトリック教会からの少女

たちは来て歌うことに熱心でしたし、Plymouth Brethren Tabernacle の牧師は自分でギターを弾きながらゴスペルを歌うとして、自分を推薦してきました。㉔また宗教的な歌をカントリーウエスタンで歌うという Pembroke テレビに出たことのある 3 人姉妹もいました。㉕私たちが準備したのは ‘Silent Night’（ドイツ語で歌う）‘Quem Pastres’（ラテン語で歌う）そしてオクスフォードキャロルブックから選んだ数曲でした。

P306

変洗練された種類の選曲であったにもかかわらず、その夜の私たちの成功は誰の目にも明らかでした。㉖カトリックの聖歌隊の指揮をした若い女性が近づいてきて、無邪気に一緒にやりませんかと頼んできました。㉗私はどう返事をしているものかわかりませんでした。㉘宗教と民族のグループは田舎では他と付き合わないものです。㉙カトリック教徒は違った民族の系統で、ほとんどアイルランド人とポーランド人でした。㉚丁寧なあいさつを交わしていたとしても、心から打ち解けることはできないでしょう。

㉛私はこの問題についてカトリックの司祭である Casertelli 神父と話すことにしました。彼は 30 年ここに住んでいて、たいそう感じのよい、心から地域の幸福を考えている人物でした。㉜私たちは今日のカトリック教会における貧しい状況について話し合いました。㉝神父はラテン語による歌ミサに対する愛着を告白し、神学校時代を思い出して、いろいろな断片を歌いました。㉞私はもし一緒に練習するなら、半分の時間を讃美歌に、もう半分を聖歌に充てることを申し出て、ラテン語ミサを教えることを提案しました。合唱団の訓練として、グレゴリオ聖歌は最も優れた方法なので、どうしても取り入れたかったのです。

㉟最初のうち数回の練習は少しばかり社交上の緊張があったものの、グループの混合によって非常に音楽的なものが得られ、誰もがそれを実感しました。㊱半年後、司教の訪問に際して私たちはラテン語で天使ミサを歌い、それから同じミサをルーテル教会に行ってそこで少し手を加えて行いました。㊲私は苦情を聞きませんでした。㊳その年の内に特別の機会があって、私たちは両方の教会で、Schütz の *Canciones Sadare*（1623 年）から数曲を撰んでドイツ語で演奏しました。㊴私はこれらのことが努力なしに、奇跡のように起こったことだという印象を与えたくないのです。㊵それどころか、私たちは並はずれたスローペースで進んだのでした。㊶私が街で大人や子どものグループを仕込むのと比較すると、ここでは莫大な時間がかかりました。㊷もしも私が（彼らを）せきたてたりしていたら不平不満がでてきたり、黙って（グループを）抜けていったりしたでしょう。㊸私は彼らを参加させるためにメンバーの家を訪ね始めました。㊹これには多大な時間を要しました。㊺また、時間を使ったのは交通手段のないメンバーを送り迎えするためでこぼこ道の往復でした。㊻私のお気に入りのお客さん（乗客）は母親と 2 部屋だけのペンキ塗も塗っていない小屋に暮らしている 3 人の少女でした。父親は彼女らを見捨てて行ったのです。毎日雪の吹きだまりが自分たちの背丈よりも高くなるような日でさえ、練習しながら道路のそばで（私を）待っていたのです。

①合唱指導者はソーシャルワーカーであり、セラピストでもありました。②合唱が私を生かしてくれるとお医者さまが言うのよ、とメンバーで一番の年長者の 70 歳の女性が言いました。③その上彼女はうわずった声をしていて、彼女の声を他のメンバーと合わせるだけでなく、彼女の隣に座らせるのにも苦労したものでした。④私は一番うまいメンバーに課題を与えました。⑤彼らは彼女が自分たちに頼らずに、そっとどこかよそへ座ってしまうと不平を言いました。⑥' 私は両側に上手な人がいるときちゃんと歌えないわと彼女は言ったものです。⑦こんな場合、あなたならどうしますか。

⑧特に興味深かったのは、1 部屋に社会の階層、年代を越えた人たちが集まって、ひとつの事柄に従事しているということでした。こども、老人、お金持ち、貧しい人、快活な人、そうでない人…⑨これはまったく私が以前に知っていた学生たちのグループとは異なっていました。⑩大学生は皆同じ年齢で、同じ興味関心や問題を抱えていて、ほとんどの学生は中流階級の家庭の出身で、平均的な知能指数をもっていました。⑪しかし、この予測しうる一貫性が最終的には快適であるというより、むしろ面白くなかったのです。

⑫混成グループであるがゆえの問題があるにもにもかかわらず、多くの見返りがありました。⑬聖歌隊員たちは、指揮者に新鮮なミルク、ケーキ、野菜に手作りソーセージを持ってきました。⑭再三思い出すのは *Hardy* の *Under the Greenwood Tree* の中に出てくるようなメンバーのことです。この小説は教会音楽家がだれでも読むべきだと思います。⑮ある日、私はバス担当の一人の隣に座っていたのですが、説教の間に格子ジマのシャツにサスペンダー姿の日焼けした丸顔の彼が振り向いて私に言ったのです。「なんか変わったことに気がつかないかい。」⑯私は辺りを見廻しました。⑰' 「そこさ、」と彼は床を指さしました。Madawaska のなまりで' th' はいつも 欠けてしますのです。⑱「ああ、椅子の下に教壇？演壇を作ってくれたんだね」と私は言いました。⑲「そうさ、ジョンが丸太をくれてな、アルバートが釘を、そして俺が作ったのさ。これで指揮者先生がよく見えるってもんさ。」

⑳約 3 年後には合唱団は 40 人近くになっていました。㉑私たちは本物の地域のグループになってきていて、外部の他の合唱（の経験のある）（団で歌ったことのある）、そして楽譜も読める人たちの注意も引くようになっていました。㉒彼らはバンクロフトよりもっと遠くから 20 マイルも 30 マイルも車を運転してやってきました。㉓私は彼らが興味をもってくれたことに感謝し、一度に何週間も仕事で（練習を）欠席するときには部分練習やリハーサルをやってくれるように頼むことができたものでした。

㉔（そうこうするうちに）私は何かもっと野心的なことに挑戦する時期かもしれないと考え始めていました。㉕私がこれを切望したのは、みんなで一緒に新しい作品をつくるということと、もし聖書からの題材を取り上げればルーテル教会とカトリックがほとんどを占めるメンバーたちの想像力をひきつけることができるのではないだろうかと考えたからでした。

①ある夜、私はヨナのお話を基に音楽劇を創るという考えを話し、これに興味がある人は次の日曜日の夜に私の家に来るようにと誘ってみました。

③ 訪問者がやってきました。二人ともよそ者（部外者）でした。③計画は早すぎたようでした。④私がこの問題を再び持ち出すにはもう少し時間が必要でした。⑤それで一年後、地方の百年祭の小さなコンサートで、ちょっとした成功をおさめたところでこれを持ち出してみました。⑥国立図書館の音楽部からカナダで 100 年前に歌われていた何曲かを手に入れて、ヒットパレードのようなことをやったのです。⑦これらの曲をその時代の衣装で演奏し、カトリック教区ホールを埋め尽くした聴衆を大いに 喜ばせました。⑧次の練習で、私は再びヨナに言及し、合唱団にこれを作りあげて次のコンサートで発表するつもりであることを告げました。

Jonah

p.p.308~309

① 私たちは一緒に通して聖書を読むことから始めました。② みんなこの話を知っています。：神がヨナにニネヴェに行って、王に人々の邪悪が神に届いていることを知らせるようと言われたこと、どのようにヨナが神の声から逃げようとしたか、Tarshish に行く船乗りを見つけて自分を一緒に連れていくように頼んだか、神はどのように嵐を起こしてヨナと船乗りたちを船の外に放り出したか、クジラはヨナをどんなふうに飲み込んだか、クジラのお腹の中でのヨナの嘆き、神がどんなふうにクジラにヨナを吐き出させて陸に打ち上げたか、そしてヨナがどうやって王に後悔させるために Nineveh に行ったかということです。

④ これは物語の中で最もよく知られている部分ですが、二番目の部分があるのです。④ヨナは今、神が彼が予言したように Nineveh を破壊しないことで自分を裏切ったと感じています。⑤ヨナは丘に登って座り、街を見下ろして不機嫌です。⑥神は木を成長させてヨナを猛烈な暑さから護ります。⑦それから まったく恣意的にそれをしおれさせてしまいます。⑧神はヨナに神の意志と行動は人間の理解を超えているのだということを教えようと試みます。⑨神は Nineveh の破壊を免れさせました。⑩ヨナは神の憐みを喜ぶべきで、この計画の変更によって（自分が）欺かれたと勝手な解釈をすべきではありません。⑪脚本は出し抜けに終わりますが、ヨナが最終的にこの試練の意味を認識したという余韻を残しています。

⑫これが私たちの脚色する題材でした。⑬私たちは神の声を作りだすのに苦労しました。これは多くの作曲家や脚本家が悩むところです。⑭私たちは力強いソロがいなかったので、全員のユニゾンで効果を作りだすことにしました。⑮ルーテル教会の聖歌隊席は後ろにありました。

⑯劇的な効果を上げるために、曲は暗闇のなかで始まります。⑰突然、神の声が悪夢のように聞こえてきます。

ヨナ、ヨナ、聞こえるか

私は神の声だ

神の声を聞くのだ

ヨナよ、起き上がれ、そして街に向かうのだ

街に行け、

そして彼らに神が彼らの邪悪さを知っていることを告げるのだ

p.p.309~310

①ヨナは起き上がってろうそくを灯し、暗闇をじっと見つめ、耳を澄ました。②声は消えてしまいました。③ヨナは腰を下ろし、ろうそくを吹き消して眠りにつきました。④長い休止。それからもう一度神の声が響きます。⑤ヨナは目を覚ましたが、神が話し終わる前に怖くて逃げだしてしまいます。⑥彼は世界の反対側へ連れて行ってくれる船を捜しに行くでしょう。

⑦船乗りを見つけることと、船を作るのは興味深い経験となりました。⑧私たちの聖歌隊には少数の男性しかいなかったのも、極力参加させたかったのです。⑨（すでにヨナは私たちのグループの中で一番うまい人が選ばれていました。）⑩私は船乗りについては、歌唱力よりも演技力を重視しようと決めました。⑪これは男性を撰ぶのを容易にしました。⑫ついに私たちはやる気十分の若い農夫、教師、自動車修理工そしてヒッピーという4人を見つけました。⑬私たちは他の場面でもやったように即興でやってみて、ぴったりだと思えるまでそのままにしておいて、テキストに従って作り上げていきました。⑭これらの詩句が田舎言葉で話される趣（おもむき）を聞かせられないのが残念です。

JONAH: オーイ、オーイ、その人たち。その船は君たちのかい。
船乗りたちはヨナを無視する。

JONAH: ねえ、あの船は君たちのかい。

船乗りたちはゆっくりと疑わしげに見上げる。

1st SAILOR: なんだい、見かけないやつだな。何の用だい。

JONAH: ねえ、あそこの船は君たちのものかい。

2nd SALOR: そうかもしれないし…そうでないかもしれん…

3rd SALOR: お前、だれだい。

JONAH: 私は J-ヨナというものだ。

2nd SALOR: -Jonah だって? どの名前だ。

JONAH: ヘブライの名前だ。

4th SALOR: なるほど、俺たちのように完ぺきってわけにはいかないな。

JONAH: あの船は出発できますか。乗せてほしいんですが。

3rd SALOR: 船に乗りたいたと。

4th SALOR: どこに行きたいんだ。

JONAH: あなたたちはどこに行くのですか。

p310

最初の船乗りがゆっくり立ち上がる。

1st SAILOR: 地獄へ真っ逆さまさ、来たいか。

2nd SAILOR: 海にでたことなんか一度もないだろう、陸者（おかもの）さん。Tarashish がどこにあるかも知らないだろう。

JONAH: はい、でもそんなこと関係ないのです。そうしろと言われればなんでもやります。

2nd SAILOR: 冗談だろ。

4th SAILOR: 俺たちの船は小さいんだ。余裕はない。

1st SAILOR: それに旅には金がかかるぞ。

2nd SAILOR: 食料ももってないじゃないか。4 週間は長いぞ。

JONAH: 銀貨があります。銀貨 10 枚でどうでしょう。

3rdSAILOR: 銀貨 10 枚だと。軽蔑的な大笑い。

1st SAILOR: わかっちゃいねえな。

2nd SAILOR: Tarashish まで銀貨 10 枚で連れて行けだとさ。

4thSAILOR: せめて 50 枚は欲しいもんだ。

JONAH: わかりました。銀貨 30 枚でお願いします。途中で食料に魚を釣れるかもしれない。

3rdSAILOR: お前を餌に使えるかもしれないな。

JONAH: さあ、出かけましょう。ヤーウエのご加護がありますように。神が護ってくださいます。

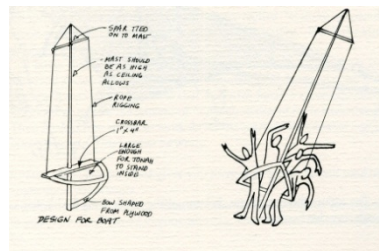
2nd SAILOR: ヤーウエ？

3rdSAILOR: ヤー何？

4thSAILOR: 一度も聞いたことがないな。

1st SAILOR: それは俺の神じゃないな。

JONAH よろしい。彼は来ないでしょう。お願いです。急ぎましょう。私はすぐに出発したいのです。



p. 311

2nd SAILOR: 金はあるのか。

JONAH: はい、ここに。

1st SAILOR: 見せてみろ。

4thSAILOR: そうとも、見てみたいもんだ。

船乗りはヨナの財布をつかむ。

2nd SAILOR: 奴を乗せていこう。たっぷり金を持っているぞ。

1st SAILOR: 俺たちと一緒に連れて行こう。金が必要だ。

JONAH: ほら、今半分は渡しておきます。残りの半分は Tarshish に着いてから。

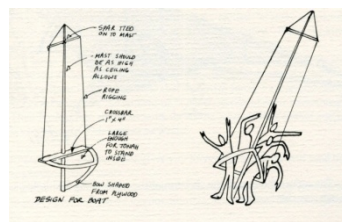
4thSAILOR: そこには着かないだろうさ。

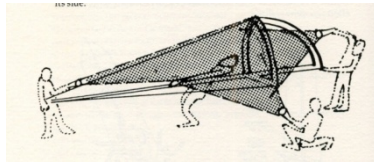
船乗りたちは船に向かって先導していき、出発の準備をします。

3rdSAILOR: あの空模様は気に入らないな。

2nd SAILOR: よし、出発だ。

①図で船の概観を示しています。②マストは高く教会の天井に届きそうでした。③ヨナは舳先に立ち、船乗りたちはその後ろに立ちました。④彼らはマストと舳先（へさき）を海にさしだして、前後にやさしく、そっと揺らします。⑤嵐の間中、船はだんだん激しく揺れます。⑥それに合わせて体を揺らす動きで効果はもっと実際になります。





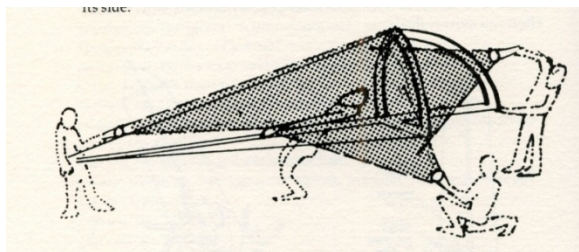
①船乗りたちが海に漕ぎ出すと、聖歌隊がアイル（側廊）から降りて来て聴衆を取り囲みます。②彼らは海を表わす太いロープをもっています。③嵐を引きよせる波の動きを表わすように、ロープを激しく動かします。④これらの動きは合唱全体の即興による声の効果で伴奏されます。

⑤私たちは‘Trashish へ’という言葉をも、波に重ねてささやくことから始めました。⑥ ささやきが大きくなると、数人のソプラノが‘flee’という言葉の風の効果？を加え始めます。⑦嵐が激しくなって、数人の男声が‘Go-go-go-go to Nineveh!’と叫び始めます。⑧嵐の最高潮で、歌い手全員が‘ヨナ’という言葉で大きなクラスターで歌声が立ち上がり、‘down’という言葉のグリッサンドで小さくなって、船がひっくり返ります。⑨すぐに暗転。

⑩私たちは海の底にいます。⑪海底の暗闇の中で、一番小さな子どもたちが光る素材の絵具で色をつけた画用紙の魚の影絵をもって動きます。

⑫魚は片側だけ色がつけてあるので、ただひっくり返すだけで魔法のように出したりひっこめたりさせることができます。

⑬魚が引っ込むと、クジラの大きな音が聞こえてきます（オルガンの低いクラスター）。⑭突然クジラが照らし出され、（腹の中の）ヨナが見えます。⑮実はクジラは船をひっくり返したもので、今度はそちら側にひっくり返します。



⑯船乗りたちはヨナが彼の嘆きを歌う時、懐中電灯でクジラの輪郭を照らします。

p. 313

①神よ、私は嘆き悲しんでいます。②神よ、私はここです。③泣き叫んでいる私をクジラの腹から出して下さい。④私の声が聞こえますか。⑤あなたは海の真ん中で私を深みに放り出してしまって、どこにいるのかわかりません。⑥あなたの起こす波が私の上を越えていきます。⑦私はあなたの視界から放り出されてしまったのでしょうか。

⑧嘆きの歌が終わると、ヨナに光が当てられてクジラが小刻みにいらいと興奮して動き始めます。それから突然神の命令、魚はヨナを乾いた岸に放り出し、教会の外に泳いで行きます。⑨ヨナはのろのろと起き上がり、経験してきたことについて考えてみます。ついに決意の末、Nineveh

へと急ぎます。

⑩男性メンバーが不足していたので、Nineveh の王は子どもにやってもらうことになりました。

⑪その役は 12 歳のトニー・フィッツジェラルドというちょうど声変りが始まったところの聖歌隊員にふり当てられました。⑫私はこの新しい課題がそのこと（変声り）から彼の気をそらすことができると考えていたのです。

⑬トニーは私の家より 2, 3 マイルのところに住んでいました。⑭彼は音楽的な才能に恵まれたカトリックの大家族に生まれた才能に恵まれた子どもで、カナダの統計学上では貧困層と呼ばれる範囲だったろうが、小さな白い家に家族そろって幸福に暮らしていました。⑮家には水道の設備がなかったので、子どもたちは近くの小川からバケツで水を汲んでいたものです。⑯家族は七面鳥を飼っていて、近所にわずかな卵を売っていました。⑰よく私が車で通る時に裸足で納屋に行く子どもたちを見かけたものです。彼らは手を振って私に挨拶してくれたものでした。⑱ある日トニーを連れて聖歌隊の練習に行った時のことを思い出します⑲美しい夏の夕暮れで、太陽がちょうど小麦畑の後ろに沈んでいくところでした。⑳私はその美しさについてふれました。㉑もしこの世に樂園があるとしたら、ここ Monteagle Valley. にあるに違いないよとトニーは答えたものです。㉒トニーはそんな少年でした。

㉓私には彼が王様の役を演じるとしたら、彼が自分の役を書くべきだと思っていました。㉔そこで、ある日私とトニーはヨナが王様と意地悪な町の人々の心を改めさせるための奮闘についての聖書のなかのわずかな部分を読みました。㉕そして彼に物語の会話の部分自分の言葉で書いてみるようにと言ってみました。㉖これが彼の書いたものです。

P313

Jonah: ①止めなさい。罪を悔いなさい。神はあなた方の罪に怒りの鉄槌を与える前に 40 日を与えました。

The King: ②行ってしまえ、ならず者め。おまえは預言者ではなく小百姓ではないか。③掘立小屋に戻って家畜の世話でもしているがいい。④お前のいるべきところはそこだ。

P314

Jonah: ⑤いいえ、その邪悪さを打ち負かさなければ、この街は完全に破壊されてしまうでしょう。

The King: ⑥たわけ者 (fool)。おまえの言っていることは無作法にも程がある。

Jonah: ⑦私はこのことを伝えるために神によってつかわされたのです。⑧神がお命じになったことです。

The King: ⑨おまえは私たちの神を冒瀆（ぼうとく）しているのだ。⑩唯一の神などいない。

Jonah: ⑪いえ、いらっしゃいます。⑫私は預言者ヨナです。⑬私はこの宣言を伝えるためにこの街にいるのです。：「悔い改めよ、ニネヴェを破壊する前に神は 40 日を与える。」

The King: ⑭しかしほんの小百姓にすぎないお前が、どうやってそれを知ったのか。

Jonah: ⑮神が私の夢の中に現れて、…

⑯そのようにして少しずつ王はヨナの話に耳を傾け始めました。⑰トニーは次第に変化する王の心を心理的な洞察で示しました。⑱その方が華やかだと思ったので、王の決定については言葉は古い英語を使うことにしました。

⑲しかしその場面の始まりには、まだ創られなければならないことがありました。⑳トニーは小さいので

私たちは彼を担ぐ（かつぐ）人を作ることにしました。（それでトニーは）船乗りたちの肩に担がれる（かつがれる）ことになりました。㉑聖歌隊はロフトで王の到着を待ちます。㉒子どもたちはガラガラを持たされていてゆずって音を出します。㉓若い女性たちが随行員お伴となって行列し、ヨナが立ち上がって王様と向かい合うところまで、中央の通路を練り歩きます。㉔この喜びの場面には音楽が必要でした。㉕私は前に練習していた古い旋法の南部バプテストの讃美歌を選びました。㉖ガラガラとベルで伴奏しながら速いテンポで歌われました。㉗しかしテキストが必要になり、私はトニーにこんなふう始めてみたらという提案をして、彼自身の行列のための言葉を書くように頼みました。

ニエヴェの王は偉大だ、
彼は強大な王だ。
彼は陸も海もそして空さえ治める。
彼はすべてのものを治めるのだ。

トニーは続けました。

王は愛され、崇拝される、
王はトランペットの響きとともにやってくる。
王は栄光 のうちに君臨し、
王の臣民はその栄光が永遠であることを望む。

㉘そうして王は入ってきて、彼を説得した信頼できるヨナに出会い、担い籠（にないかご）から降りて恐れ入って罪を悔い改めます。㉙背後から聖歌隊はよく知られた讃美歌を歌います。

①場面は町から離れた丘の頂上に移ります。②聖歌隊は合唱で説明をします。

ヨナは怒りました。
彼は偉大な街が破壊されるだろうと告げられていたのです。
しかし神は考えを変えて、街を苦痛から逃れさせたのです。
ヨナは騙されて恥をかかされたと感じました。
彼は神にその行動を説明するように呼びかけました。

③この言葉の終わりは大変重たく、バスドラムで中断されます。

④丘の頂上からヨナは叫びます。

神よ、神よ、どこにおられますか。 あなたは私を騙しました。
隠れていないで、教えてください。 なぜあなたは私を騙したのですか。

⑤ 会評議会が私たちを訪問しようと決めた日にこの場面のリハーサルをしていました。⑥牧師さんはいつかひょっこり練習がどんなふうに進んでいるか見に行ってみようと言っていました。⑦田舎では直接に述べられることはありません。⑧彼が言いたかったのは、私たちの上演が教会で行われるのにふさわしいものであるかどうかについての不満だったのです。⑨まっこうから彼らに対決することを決意して、私はこのシーンをその夜リハーサルすることにして、彼らのやってくるのを待ちました。⑩彼らはしばらくそこに立ち止まって、ヨナがげんこつを振りかざしながら「神よ、神よ、どこにおられますか」と叫んで地下室に消えていくところを見ました。⑪私は彼らに会うために呼び出されました。⑫聖歌隊は息を殺して待ちました。⑬私は彼らが目にした場面について説明するように求められました。⑭私はヨナの物語のこの部分は神に対する死と怒りであり、そのために声を張り上げたのだと説明しました。⑮牧師は聖書を取り出して、その部分を声に出して読みました。⑯評議員たちはよくよく考慮して、結局一人を除いてほ

とんどのメンバーが賛成しました。この一人というのは以前よくサボったために合唱団を辞めさせられた人でした。

⑩評議委員会はこの問題を非公開で話し合いたいと言いました。⑪30 分ほどして牧師が教会で現在のままヨナを上演することを許可してくれました。⑫聖歌隊は大喜びでした。

⑬たぶん私はこの問題をもっとうまく処理できたかもしれません。⑭仮に評議委員会がもう少し後で入ってきいたら、かわいいフルーティストが、木の葉と花で飾られたフルートで陰を提供する木が説教壇で成長する様子を演じるのを見たでしょう。⑮それから全部の子どもたちが天使になってヨナのところに歌いながら寄り添うのを見たでしょう。

Angels: ヨナ、ヨナ私たちの声を聞いて。 私たちは神様からつかわされたのです。だれが木を育てて、しおれさせましたか。

Jonah: 神が木を植え、そしてしおれさせてしまったのだ。でもなぜ。

Angels: あなたにお示しになるためです。

Jonah: 私にはわからない。 神が私に何をさせようとしたのかわからない。なぜ神は私を苦しめるのか。

なぜ神は約束したように、街の人々を罰しなかったのか。

Angels: 彼らは神のやり方を知り、そして敬う（うやまう）ようになったではありませんか。彼らは罪を悔い改め、神はそれを許されたのです。 それこそがあなたが学ぶべきことなのです。理解できなくても、神を敬うことです。

p. p. 316~317

① そして最後に自尊心を超越したヨナの勝利の目撃者となるのです。②最後には聖歌隊全員と共に神を賛美し、喜びを表わして踊るのを見るでしょう。③評議員はこの状態なら見ることはできるのでしょうか。④私は今でも考えるのです。

⑤ヨナは Maynooth のキリスト・ルーテル教会で 1979 年 8 月 29・30 日に上演されました。⑥これは約 40 人くらいの関わる地域の事業として実施されました。⑦よく考えてみれば、Maynooth 地区 の住民数は大体 200 人くらいで、この文化的活動への一人当たりの参加は多分全国平均を上回ったと考えられます。⑧教会は二日間とも満席でした。⑨誰もが数マイル四方からやってきました。⑩創造してください、これは中世に小さな町で上演された奇跡劇と同じ方法なのです。⑪作品は他の場所でも上演されましたから、印刷したスコアもあります²。

⑫私はヨナが小さな共同体のための、そこに暮らす人たちによる最初の作品であることを報告できればと思います。というのは私たちには本当にそのようなレパトリーが必要だったのです。⑬しかしその後、私はオンタリオのロンドンでもっと大きな地域での *Apocalypsis* の監督という申し出を受けることになったので、Maynooth での活動から遠のくことになってしまったのでした。⑭聖歌隊は活動を続け、ほかに 2 つの新しいシアターピースを作りました。そのうちの一つは地方の歴史を基にして彼ら自身が書いたものです。⑮しかしながら本当に引き継いでくれるリーダーがいなかったので、この小さなグループは崩壊してしまいました。⑯このグループの活動が始まってからヨナの上演まで、ほぼ 4 年近く存在したことになります。⑰グループの活動が隆盛を極める（きわめる）には十分な時間というわけではないが、独自の何かを作り出すには十分な期間ではありました。⑱グループが活躍を続けるためには、ソーシャルワーカー、地域社会の立案者そして音楽教師としての経験を積んだ指導者の注意深い指導が必要なのです。

⑲全国のすべての小さな町は意気消沈してしまっています。というのもそれらの町は、大都市からそんなに離れてはいないものの、単にその周辺であるというに過ぎず、彼らの自尊心とでもいうべき素朴さを奪い、その代りに年金受給者の支払いやら道路の舗装、そしてテレビ視聴ができるという環境を与えられるのです。

⑳音楽における豊かな環境は社会福祉の面でも（地域を）鼓舞することになるのです。㉑これは目的ではありませんが、ひとつの結果ではあります。㉒音楽（作品？）は一人か二人でも 30 人でもつくれます。㉓素人で

も専門家でも、若くても年老いていても、裕福でもそうでなくても、そのどれもの混合でもいいのです。㉔お金をかける必要もないし、真似をすることもあります。㉕これまでずっと演奏されてきた作品でもいいのです。独創性に溢れていた昔の音楽と同じように作り出すことができます。㉖そしてこの独創性が進展していくと、小さな地域の音楽は大都市と同じように幅広く認められることも可能になり、大都市の文化と地方の文化の崩れたバランスを調整し、どこにいてもそこに暮らす人々の自尊心を復帰させることになるでしょう。㉗必要なのはそのようにことが運ぶように取り仕切ることのできる本当の教師なのです。

ポルトガルへの手紙

P318①（気候の）違いは驚くほどでした。②暖かなあなたの国から突然帰国してみると、私の町では雪が私の膝くらいまで積っていました。③農場に戻った晩には温度は氷点下 30 度になりました。④しかし私は寒さを幸せに感じていました。⑤あなたには不思議に感じられるでしょうね。⑥いや、これは単に音楽における興味の共有というだけでなく、私たちの間にもまた違いがあるからなのです。

⑦これらの違いは環境や気候によると思われます。⑧Gulbenkian Foundation での講義中、ずっとカナダの冬のサウンドスケープの基音が水がたくさんの不思議な声で話す多くの様子や氷や雪によるものであることを話したのを覚えていますか。⑨私は皆さんに人が雪の中を歩く時の足音を録音したもの（ひょっとすると“初演”になったかもしれないですね）、を聞かせたかったのです。⑩しかし私たちは録音機を見つけることができなかったの、例題なしの講義をするしかありませんでした。⑪よい授業ではありませんでしたね。⑫静かな私の言葉には怒りと失望が隠れていました。⑬気がつきましたか？

⑭私は人が雪を歩く時の音を聞かせたかったのです。⑮それは一度として同じであることはありません。2~3 度の温度変化でさえ雪の構成はまったく変化するのです。⑯私が雪靴（かんじき）を履いて歩いていて、完全に同じ音を聞いたことはないのです。

⑰きのう雪靴を履いて凍った小川を越えて、牧場の向こうの木々のところまで出かけました。⑱雪は固い氷で覆われていて、雪靴を支える強度はないので沈み込むと起き飲足音がきこえました。⑲私が足跡をつけると、小さな雪の塊が靴の周りにまき散らされました。⑳傾斜した丘のあたりでは、氷の破片は小さなガラスの雪崩（なだれ）の滝のように雪になって落ちていきました。

㉑私は立ち止まって、藪（やぶ）の小枝を折り曲げました。㉒枝はポキッと折れ、小さな氷のしずく（滴）を放ちながら四方八方へ細密なソプラノの声をはねかえしました。㉓私は自分が聞いていた音というのは、突然にばらまかれる爆発音のような強い衝撃を与える音であることを深く認識しました。㉔それから森のところで立ち止まり（自分の息切れの音だけが聞こえました）、ゆっくりと情景を見渡しました。㉕他には人影はなく、動物の足跡さえありません。

p319 ㉖私の息が静まると、代わりに異なる呼吸が私の背後の常緑樹の間から、たとえではなく、葉がつくり出すのとも異なる不思議なうなり声を運んでかすかな風が吹いて来ました。㉗ 私は息を殺しました。㉘風が静まりました。㉙ 遠くで犬が吠えていました。

㉚踏み固められた道に戻ると音は変化しました。㉛静寂の中で自分が動くと、いつもの飛散する水晶の爆発音は取って代わりました。㉜自分が動くと、それぞれの雪靴の前後で 4 つのはっきりとした音が聞こえました。前の部分ではカリカリという音、後ろの部分ではやわらかな音が聞こえました。㉝ 小川のところにやってくると、氷の下から聞こえてくるたくさんの（流れの）声を聞くために立ち止まりました。㉞ そして博物館の裏の公園に行って、見事に積み重ねられた石の階段から流れ落ちるせせらぎの音を聞こうとした日のこ

とを思い出しました。③⑤ 私の課題は「一度に少なくとも3か所から水の音が聞ける場所を探しなさい」というものでした。③⑥ そしてある若者は5つの源（みなもと）を聞ける場所を見つけましたね。

③⑦ あの公園はリスボンでの私たちの救いでした。太陽が出てくると公園に戻れることに私はいつも感謝していました。③⑧ 往来の騒音で取り囲まれていたとしても、まだ中心には霊聴：超常的な聴力の啓発を始めることのできる気持ちのよい場所がありました。③⑨ 同じ日に私たちは音を運びながら公園を横切って戻ってくるという体験をしましたね。③⑩ 私はこれを以前にやったことはありませんでしたが、子どもたちは音を忘れることなく運ぶことを面白がるだろうと考えたのでした。③⑪ 私はみんなに音を与えてそれを公園のすべての端まで走らせてまた戻ってこさせました。③⑫ 一般的に音は戻ってくるときに鋭くなる？という傾向がありました。③⑬ どうしてでしょう。走ったことで音を押し上げたりしましたか。

p319~p321

①二つのグループに分かれて、みんなで同じ音をハミングしようとした時にも同じようなことがおこりました。②それからカルロスが一方のグループを連れて博物館の周囲を一方向に、そして私が片方のグループを反対の方向に連れていきました。③ 観覧席で出会って10分後には、二つのグループの音には全音の差があって、ほとんどバラバラの状態でした。

④室内に戻って一音の作曲を試してみました。⑤最初は馬鹿げた練習と思えます。そしていつかは（この練習を続けていくうちに）私がこの課題をクラスの最後の課題にすることが明らかになります。というのは、（この課題は）見かけはちっぽけですが、（生徒に）集中して創造力を使わせるようにさせるからなのです。⑥問題：クラス全員が何人かを使って一音の作曲をきなさい。好きなようにしてよいけれど、私たちを退屈させないように。⑦最初はリズムの変化や音色や強弱の変更で工夫は興味深いものでした。⑧しかししばらく後にはこれでは十分ではなくなります。「退屈だな」と私は言いました。⑨前と同じように面白くしてください、という⑩誰かが「できません」、「先生が何かやってみてください」と言いだしました。

⑪「家に帰ろう」「音を連れて家に帰ろう」と私は言いました。⑫「一晩中その音を覚えておいて、明日そのままの音を持ってきてください。」⑬私はホテルに帰る道すがらその音をハミングしていました。⑭晚餐のために着替える時にも記憶し続けました。⑮10時ごろ、レストランで（私は素晴らしい魚料理を食べたところでした）音を忘れてしまったことに気づきました。⑯一晩中私はその音を探しました。私は先生だったので。⑰誰かが正しいピッチを覚えていたとしても、もし私自身が忘れてしまっていたら、彼らのピッチが正しいかどうか確認できないでしょうから。⑱次の日、笛を同様の圧力で吹いて「音」を再現しました。⑲正しい音だったのでしょうか。⑳私はその音をクラスにハミングしました。㉑それを手に入れてから私はみんなに「昨日家に持って帰った音を歌ってみてください」と言いました。㉒絶妙の半音階。たぶん誰一人元の音を覚えていた人はいなかったと思います。㉓それでは課題は失敗だったのでしょうか。㉔とんでもない。もともとの課題だったのですが、私たちにとって興味ある音を保持することを試みたわけです。

㉕あなたもうわべはシンプルだけれども、本来の音楽と社会への関連に関する深い質問へと進んでいく私の練習のやり方を理解し始めたと思います。㉖ 私はどうして音楽教師がこのような考察をしなくていいと考えるのかわからないけれど、ほとんどがそうであることを知っています。㉗ 結果として、どの学校でも音楽はカリキュラムのなかでは非創造的な教科であり、どの学校においても明らかに、称賛されるというよりも寛大に取り扱われるべき（教科）であるという状況です。㉘ 私がいつも課題の中で試みるのは、もっとも基本の音に戻ること、新しい耳で（その音を）聴くこと、また音楽的な感覚のみならず、体全体で、また社会との関連において聴くことなのです。㉙ もしそうしたければ、それを音楽と呼びなさい。㉚ 多くの先

生方は音楽をこのような極端な状態に推し進めることは好まないでしょう。㉑ しかしながら何と（言われようと）呼ばれようとそれが人間の教育に必要であることを私は知っています。

㉒ でも最初の日に戻らせてください。㉓ 私たちは部屋の中の音、自分自身の体と衣類の音を聞くことから始めました。㉔ 私は「頭のとっぺんの4か所をこすってみて音の変化を聞きなさい」と言いました。㉕ それから目を閉じているあなたが座っている椅子をこすったり、ひっかいたり、たたいたり指でたたいたり、すべての音を調査させます。㉖ まだ目を閉じたままで、部屋の中を動いている私の声を聞かせました。㉗ 私は部屋の隅で壁に向かって立っています、ゆっくりあなたの方の方へ向きを変えます、私がどちらの方向に向いたか言えますか、ドアを出て廊下の方へ降りていきます、どのくらい遠くまで私の足音が聞こえますか、廊下から部屋に戻ってきます、私が入口の狭い場所から大きな部屋に入る時の声の質の違いに注意なさい、私はドアを閉めますよ、聴きなさい、もう一度ドアを開けて閉めますよ。それは同じ音ですか。…同じようにドアを閉めることは不可能です…聴きなさい。㉘ その時には私があなたたちの近くに移動するまでの歩いた跡が、私の声によって示されていました。㉙ あまりうまくはできませんでしたが、新しい耳の訓練ができましたね。㉚ しかし現在では、空間の意識は現代音楽の特性になりましたから、動いている音をたどる訓練はきっと役に立つでしょう。

p. 321 ① 私はあなたたちの中の一人の肩をたたきました。②音を見つけて（その音を）持続させて部屋の中を移動しなさい。③かぎの音を空中に響かせました。④二番目の音を加えなさい。他の人は違う動きで紙をバタバタさせました。⑤それから私はあなた達に右手で一つの音をたどらせ、左手でもう一つの音をたどらせました。⑥課題はいくつかの音を部屋の中で二重に動かして、女性がその内の二つを、男性が他の二つを追いかけた時に特に難しくなりました。⑦しかしこの練習で、あなた方はだんだん上手になっていきました。⑧もっとも難しかったのは、四人の歌い手が属七の和音を歌い、それぞれのグループがその内の二つを追いかけて残りを無視するという課題でした。しかし、少なくともお分かりになったと思いますが、いかに伝統的な耳の訓練との関連があるかということなのです。

⑨私たちはそれぞれの声を聞いていました。⑩私は肩をたたいて、自分の名前をゆっくり4回繰り返すよう言いました。⑪あなたがたの長い優美な名前は私の耳を魅了（みりょう）しました。⑫マリア・デ・アラウデス、ペレイラ デ アンドラデ、マリア イサベル ゴンカルヴェス デ コスタ、マリア アルミンダ デ モライス マルクェス、ホセ アレクサンドレ ゴメス、アゼヴェド レイス…。それから突然違った名前が発音されました。誰も予期していなかった’ Shmoo-hel… Shmoo-hel Shamoo-hel…。’ あなた方はびっくりしてこの不思議な名前の男性を見つめました。⑬Shmuel Hakohen がイスラエルから講義に参加していました。⑭彼は神様からの使者でした。⑮私は彼が私の仕事の意味をよく理解していることを知っていましたし、あなたの方のほとんどがそうでないことを懸念していました。⑯懸念？そうです。私はあの最初の日に怖くなったのです。⑰会場ばかりか通路までびっしりと埋め尽くした110人もの人々がいたのです。⑱私は恐ろしくなってしまうと、冒険的な策略であなたを呆れさせましたね。⑲私は教えることを拒絶しました。すっかり当惑する会場。私は教えることはできません、そう言って私は座ってしまいました。⑳その時、私は110人の会場を埋め尽くした人々に有益なちょっとしたアイディアをもっていませんでした。㉑もちろん私はあなた方を喜ばせることのできる仕掛けをもっていました。㉒だって、前にもこのような状況を経験したことはありましたからね。㉓けれどもそれは“創造的”ではありませんでしたし、何とんでも私たちのこのセミナーのモットーは“創造性”だったのでから。㉔Graziella が最初に私をあなたの国に招待する手紙をくれた時に決意したことだったのです。㉕私は皆の目が不審そうに私を見つめている間、教壇で静かに座っていました。㉖Graziellaは目に見えて（明らかに）そわそわしていました。㉗通訳することが何もないのです。㉘ポルトガル全土から人々は創造性を学ぶためにやってきているのに、指導者は眠り込んでいるのです。㉙それにマイクを設置したりして、メディアでは当たり前だけれど無作法な行動をとっていたラジオクルーは30分前から混乱していました。彼らはタ方のニュース用にちょっとした気のきいたコメントが欲しかったのですが、録音はできなかったのです。録音することがなかったのです。

p. 322

㉚私たちは10分も座っていたでしょうか。㉛とうとう私は言いました。「これはおもしろい状況ですね。111人の先生方でぎゅうぎゅうのこの部屋の中で、全員が何かを見つけようとしています。みんなでこの窮地を脱するための課題を作りましょう。もし誰か教えたいとお思いなら、どうぞやってみてください。」㉜あなたには私が説明しようとしていたことがわかったはずです。つまり創造的な環境を作るために指導者が皆のコ

ントロールをほどこくことが必要なのです。極端な提案ですが、わざとそうしたつもりはありませんでした。

⑨その瞬間には、私は本当に創造的な音楽と題された部屋の中で、109 人のポルトガル本国の人たちと 2 人の外国人と一緒にできることを思いつきませんでした。⑩私は誰か自分でやってみたいという思いつきをもっているかもしれないと思いました。⑪教師としての経験から、私は 1 つのことを学んでいました。それは他の人から創造的な反応を望むなら自分自身は静かにしていることを学べということです。⑫先生が「分かりません」と言ったら、だれか他の人が答えることができるかもしれません。⑬その時あなたは再び学ぶものになれるのです。それが全体的な発展性の世界への入り口なのです。⑭しかしながら、それは学ぶことに非常な困難を伴う課題でもあるのです。

⑮私が範囲を広げてから、アイデアが溢れてきました。午後にも沢山の時間があつたので、それらを試してみることができました。⑯最初のアイデアは音楽ゲームのようなものでした。⑰あなたは小さなベルを鳴らしてあちこち動きながら提案した人を覚えていますか。私たちはそれが聞こえない隠れた場所を見つけなければならなりませんでした。⑱けれども部屋はそれに十分な広さがありませんでした。⑲それから誰かは目を閉じて部屋を動きまわって偶然誰かにぶつかった時に面白い声を出す、という提案をしました。⑳けれどもクラスの中で、より若い人たちがやりたがりました。㉑たくさんの提案がありましたが、しばらくの間しか私たちの関心をひくことはありませんでした。㉒それらの提案がどこかへ導いてくれそうにはなかったのです。

P323

①もちろん長い時間を大人として過ごしてくると、子どものように自然に何かを創り出すことはできなくなるものです。②大切なことは、本当の突破口（とっぴこう）が起こる前にくじけたり、試みを止めたりしてしまわないことなのです。③楽な支えとしてよく知られている方法を使ったり、あきらめてしまって、実際ある人が提案したように一緒に歌を歌ったりするのも安易にすぎます。④午後は失敗続きだったのですが、時間を浪費したわけではありませんでした。私たちはお互いに多くのことを学んでいました。⑤私はあなた方を驚かし、興奮させましたが、何よりも一番多く学んだのは、あなた方ポルトガルの人たちはたくさんの不条理（ふじょうり）な状況においても、自分たちを笑い飛ばすことを恐れないということでした。

⑥実は創造的な教育においては教師には本当の役割がありますし、課題も設定されていて、教室にいる学生の数だけ解決法があるのです。⑦課題には、常に新しい解決を発見したくなるような挑発的な言い回しが不可欠です。⑧そしてなだめすかししたり、確認したり、質問したりしてより大きな問題へ、さらに高度な表現の形式へと導いていくための技術を習得（しゅうとく）していかなければなりません。⑨私の課題は本当に挑発的ではありますが、本当の発見へと導くには十分ではありません。

⑩次の日、私は退屈な思考を刺激することを期待して、発見的な課題を与えました。それは次のようなものでした。音楽ゲームを考え出さない。「普通のフットボールゲームのようなルールで、ただボールとして音を使ってください。」というものでした。⑪どうやって仲間にボールをパスするか。⑫相手チームはどうやってボールを奪うか。⑬どうやってゴールを決めるか。⑭各グループは 10 人で、2 チームがそれぞれゲームを作ります。⑮30 分が与えられ、やり方を考え出して、発表することにしました。

⑯基礎的な音楽家養成において教えるために、もっとゲームを考案できたら子どもたちの音楽を学ぶための経験はもっと輝かしいものになるのではないかと私は常々考えているのです。⑰運動競技に参加するほどワクワクして興奮することはありませんからね。⑱私たちは音楽の授業でもっとワクワクすることができるかもしれません。

⑲多くのゲームが提案され、その中から最終的にいくつかの要素が抜き出されて、実際に活動できそうなゲームを作り上げました。㉑ルールを覚えていますか。5 人のプレイヤーからなる 2 チームがお互いに向かい合います。先生が審判です。コインを放りあげて最初にボールをもつチームを決めます。ボールになるのは「音」か、手か、声で作れる複合音です。㉒指名された選手がその音を作りだして、その音をチームの他の選手にパスしていきます。彼らは正確に真似ることでパスを受け取り、教師はそれが正確であるかどうかを決定します。㉓対するチームは自分たちの好きな対抗する音（騒音）で妨害します。もし複合音をもっているチームが音のボールでつまずいたら、すぐさまボールは相手チームに与えられ、新しい複合音が始められ、全く同じ方法で相手を妨害しながらパスされていきます。㉔もしボールがうまくパスされて、チームの最初の選手に戻ったら、ゴールを試みることができます。ゴールは新しい複合音を作った人によって行われ、相手チームの誰かにむかって投げられます。これを受けた人はその音を繰り返さなければなりません。正確に繰り返したら、敵の得点を妨げることになります。できなければ、ゴールの前に発案者はもう一度繰り返すことで証明しなければなりません。㉕これは複合音が難しくなってしまって、誰も思い出すことができなくなるのを防ぐために必要な付け加えでした。

㉖私たちはこのゲームを心から楽しんで 2 時間ちかく続けました。㉗私たちがゲームを止めた時、あなた

方のうち何人かが、このゲームから何か音楽的なものを学んだかどうか不思議に思っていることを知っています。㉑しかし、いつも楽しさというものは学びを隠しているものなのです。ちょうど悲しそうな顔つきが無知をかくしているようなものです。音楽家としての大事な働きのひとつは、正確に音を模倣することであり、これを果たすための耳の訓練が考えだされることなのです。㉒これと違うことをやりましたか。㉓はい、私たちが音をまねることで学んだのは、教師によってひとつの音楽のシステムだけの刑務所に位置づけようとする提案ではなく、むしろ自由に音を作りだすことだったのです。

①すべての活動を通じて、私があなた方に正確に音を模倣させようとしていたことがわかったと思います。②たとえば、私たちは個々の名前を同じ音と抑揚だけを使って模倣しようとしていました。これはとても難しかったですね。③私たちはお互いの笑い声を真似しようとしていましたが、これはもっと難しかったですね。④実際、あなた方は自分自身の真似さえできませんでした。というのも自分の声に気づいた瞬間、しかめつらをするからです。⑤これが耳の訓練のための練習で、音楽のある体系とは反対で、すべての音楽の根源であり、地球上のあらゆるところに湧き出ているものなのです。⑥全音階のメロディをパスするのはより簡単です、なぜなら私たちが最もよく知っている音楽体系の構成要素だからです。⑦大きな円の中で、私はいくつかの同時に起こる断片を聞きとるようにしていました。誰でも短い断片を示して、それを隣の人にパスしなければなりませんでした。それは大変な集中力を要する練習でしたが、30 から 40 の多声音楽の断片が動いていくのを聞いていると大変美しいものでした。⑧理想的な訓練とは、円の中にいるすべての参加者がそれぞれの断片を正確に受け渡すことです。

⑨同じように美しかったのは、実際の町や田舎のサウンドスケープを自分たちの声を使ってちょっとした即興で演奏した ‘nature concerts’ でした。⑩でもここにはポルトガル警察の 2 音のサイレンが都会の即興を聞かせてくれるのを除いては全音階の音がありませんでした。⑪それでは、警察はサウンドスケープの中では全音階の守護者でしょうか。⑫ nature concert の中でも私が特に好きだったのは、波とカモメと船からなる海の風景でした。あなたたちにはごく当たり前の生活の一部でしょうが、私のように海から離れて暮らしているものにとっては特別に魅力的なのです。⑬しかし、ここにも創造的な発見から学びたかったことがあります。そこで私は海の風景のグループがその即興を他のグループに教えるように勧めたのです。⑭二番目のグループは nature concert をもう一度聴いて、それを声で、音から音へと真似るのです。⑮どんなに歪曲や変化が入り込んできたことでしょう。⑯効果のタイミングと持続時間の見積もりがもっとも難しいということが証明されました。⑰あなたたちは午後の間中、この問題を考えさせられました。⑱一つずつの課題をこなしていくことによってのみ、次の課題に進むことができるのです。

⑲あの夜、あなた方には宿題がありましたね。「面白い音を学校にもってきなさい。もってこることができて、面白い音ならなんでもいいです」という課題でした。授業で判定しました。（授業では常に判定するのです。）そして面白くないと判断された音は戻されて、もう一度挑戦することになるのです。⑳それこそが私たちの Mr. No-No を追い払う方法でした。㉑私は彼をそう呼ぶことにしていました。というのもすべてに承服せず、私が活動に彼を引っ張りこもうとするといつでも手を振り払っていたからです。㉒ Mr. No-No は音をもってこないの私は家に戻って見つけてくるように言いました。本当に驚きました！ 彼が音楽の重要な監視人であったことに私は気づかされました。㉓ Mr. No-No がいなくなってから、彼の静かな影響力に気がつきました。私は彼の人生に何らかの形で音楽が関わっていることを願っています。

㉔しかし彼の失踪（しっそう）は、本当に私たちが共にした最も美しい体験の完成を可能にしたのでした。ちょうど私は小さな合唱曲ミニワンカを聞いたところでした。この作品は水の音を模倣したものです。㉕あなたはこれがとても好きでしたね。それで私はあの曲のようなことができるかもしれないと言ったのでした。㉖

そこで皆で雨粒の様子をこれまでなかった言葉で表してみることにしました。㉗ある人は小川の流れ、滝の音、川と海、これらを表わす言葉は言葉の音として大変異なった趣（おもむき）をもっていました。㉘私たちはそれを2列に並べて、雨粒から海までをスタートさせました。㉙それから一人ずつ列の間で目を閉じて受け渡しながら、水の音楽を聞きました。㉚迷ってしまうと、みんなで軽く押して終わりまで案内されました。この案内は刺激による触感の広がりがかきかけとなり、故意に芸術的な拡張として私たちの作曲に加えられているのだということを考えていました。㉛雨粒から海の波までの個々の音は、音楽上の経験だけでなく、触覚の経験にもなったのです。㉜列の間で誰かがパスすると、小さな雨粒は誰かの頭や肩にはねて、それからもっと大きな雨粒がポトンと誰かの背中や首に落ちるのです。㉝また時にはくすぐるような感覚で小川の泡立つような感じ、それから全員の指先で触られることで滝の水が現れました。㉞それから潮の流れはもっと激しくなり、津波のように呑みこまれていったのです。

①目を閉じた人々から成る2列が、身をかがめて動いたりして通り抜けるところは素晴らしい光景でした。②それは新しい経験で、音楽もなく芸術に区分もなかった有史以前の文化の中に先祖がえりをしたような感じがえしましたが、単に彼らの独特な貢献によってつくられた統合的な経験だったにすぎなかったのです。

③私はその後にもこのことを思い出すことができます。④Shmuel（現在は無事にイスラエルに戻っています）は私たちが一緒にやった課程の記録を送ってきました。⑤しかし私はすでに最も重要な点に触れたと思います。最も鮮明に思い出し、この記録に記したかったのは記憶と未来の実験とすることだったのです。⑥あなたがたのうち何人かは同じことをするかもしれないし、異なった場面では他の態度を示すかもしれません。⑦一緒にやった何かが有効ならば使って積み上げていけばいいのです。⑧もしそうでなければ、伝統に戻って今までの方法を大切に確認して再び始めればいいのです。

⑨私たちは明るい光の中で別れました。⑩握手をしたとき、あなたの目には何かが踊っていました。⑪そして私も最後に別れた時にあなたのことを忘れることはないだろうと思っていたし、学んだことについても感謝していました。

Edward's Magic Orchestra

①ある日、私は「シェイファー先生へ 僕は8歳です。僕の先生が授業であなたの作品を演奏しました。僕はその曲が気に入りました。 エドワード」と書かれたカードを受け取りました。

②*Edward's Magic Orchestra* は彼とすべての子どもたちのために書かれたものです。

③「今日はオーケストラについて勉強しましょう」とエドワードの先生が言いました。音楽に興味をもっている子どもたちは、席について教えられた通りに机の上で手を組んでいます。

④「最初はフルートよ」とだけ言って Chirp 先生がレコードプレイヤーのスイッチを入れると、すぐにフルートの華やかな音が部屋中に広がりました。

FREEOLEE O LEE BEE BEE BEE TITTLE TEE DIDDLEDEE

⑤フルートの音はこうに聞こえました。息もつけないくらいの高音のトリルが終わると Chirp 先生はレコードを止めて、みんなにフルートの音が思い出させる音を尋ねました。

⑥「小鳥」と一番に手を挙げたエレインが答えました。⑦「つぐみよ」といつも正確な答えを出す Patsy が答えます。彼女はいつもクラスでトップです。

⑧何人かの子どもたちが答えた後、Chirp 先生はエドワードにフルートが何を思い出させたかを尋ねました。

⑨長い間ためらったあとで。⑩犬が猫をおいかけているところ？と自信なさそうにエドワードが尋ねました。

⑪みんなが笑いました。⑫「そうね……。とっても独創的な答えだわ」と Chirp 先生は言いました。⑬けれど

も他に何とっていいかわからなかったの、先生はプレイヤーのところに戻って「次はクラリネットよ」と続けました。

DOODL DOODL DIDDLE DADDLE DIPADEE DIPADEE BIPPLE BIPPLE DIDDLE DADDLE DOODLE

⑭なるほど、クラリネットの音はこんなふうに聞こえました。⑮エドワードは一生懸命聞こうとしたのですが、とても難しかったです。⑯そして3番目の楽器が紹介されるころには、彼はすっかり眠くなってしまいました。⑰これはヴァイオリンでした。そしてやさしいアーチのようなその音は、本当に彼を眠たくさせたのでした。

SHMEE00 SHERALEE LOO SHERALEE O LEE O LEE

⑱高くゆっくりと舞い上がりながらヴァイオリンは歌いました。⑲エドワードは頭を机の上にくっつけて眠りたくなりましたが、それは許されることではありませんから座ったまま、目を半分閉じて空想にふけりました。

⑳夢の中で、彼は広い野原にいました。㉑夜だったけれど、目の前の丘に小さな老人がいるのを見た時でさえ怖くありませんでした。㉒エドワードが近づいてみると、月明かりのなかでしたが老人が目を閉じているのがわかりました。㉓老人は頭をわずかに傾けて、何かを聞いていました。㉔だけどこれはできないことでした。そこには聴くようなものはなかったのですから。㉕何もかもシーンとしていました。㉖エドワードがもっと近づくと、親切そうな顔をした男の人はエドワードの方に身をかがめて言いました。「聞こえるかい？」

㉗「聞こえるって何が？」とエドワードは尋ねました。

㉘「シーッ」と彼は言いました。㉙聞いてごらん 星が水浴びしているよ

㉚Edwardは耳をすませましたが何もきこえませんでした。

㉛「指を耳の中に入れてごらん、役に立つよ。それから10数えるんだ。息を深く吸ってゆっくり吐くんだよ。」と老人は言いました。

①Edwardは言われたとおりにやってみましたが、どんなにゆっくり呼吸をしても何も聞こえませんでした。

②「ああ、音が消えていく」と老人が言いました。③「別の夜に行ってしまった。」

④「僕、何も聞こえなかったよ」とエドワード。

⑤「君は正しい時と場にいないかならないな。まず何より最初に聴き場所が必要なんだ。」⑥彼はその言葉を特にしっかりと発音したので、太字にしておきました。⑦「それから、音を聴くのにには音に近づくやり方を知らなければならないのさ。」

⑧「聴く場所ってどこなの」とエドワードは尋ねました。

⑨「場合によるね」と彼は言いました。⑩「眠る前の君の部屋なんかがいいかもしれないな。始めるのにはいい場所だ。おや、大変、もう行く時間だ、雷の音を聞くんだよ」と突然彼は言いました。

⑪そしてその瞬間に彼は行ってしまい、エドワードは一人野原に残されました。⑫エドワードは雷の音をはっきり聞くことができました。そして突然、雷は大きくはっきりと彼の名前に聞こえたのでした。

⑬‘ED-WARD!’ ‘ED-WARD!’ Miss Chirpはしっかりと言っていました。⑭「ヴァイオリンは好きじゃないの。」

⑮すぐにEdwardは夢を見ていたことに気づきました。⑯クラス中のみんなが彼を見ていました。

P329

⑰「僕…、僕…」と彼は口ごもりました。

⑱「ヴァイオリンは好きじゃなかった？」とMiss Chirpは繰り返しました。

⑲「僕…他の音を聞いていたの」とエドワードはゆっくり話し始めました。

㉑「何の音を聞いていたの？」とMiss Chirpは本当に不思議そうに尋ねました。

㉒でも夢の中のことをなんと説明したらいいでしょう。㉓クラスの何人かの子どもたちはニヤニヤしていました。㉔それでエドワードは黙って座っていました。

㉕「何の音を聞いていたの」とMiss Chirpがやさしく聞いてくれたので、エドワードは楽に答えることができました。

㉖「星が水浴びしている音なの。」‘㉗クラスのみんなが笑い出す前に、彼は話を続けました。「僕はその音を聞くことができる小さな男の人に会ったの。その人はその音を聞くには耳に指を入れて、ゆっくり呼吸をしながら10かぞえるって教えてくれたんだ。」

⑨すると Miss Chirp は彼女自身も含めてですが、誰もが驚くようなことを言いました。⑩先生は「やってみましょうよ」とエドワードを教室の前に連れて行き、夢の中で小さな男の人が音を聴くために教えてくれた方法を実演させたのです。⑪みんなが指をしっかりと耳の中に入れて、10 数えながらゆっくり呼吸をしてみました。そして息を吐きながら聞きました。

⑫長い時間、とても静かでした。

⑬でも Miss Chirp が「聞こえた人」と 尋ねましたが、だれも音の聞こえた人はいませんでした。

⑭それからエドワードは聴く場所のことを思い出したのでみんなにそれを伝えました。

⑮「たぶん学校は正しい場所じゃないのよ」と Chirp 先生は言って、全員にその夜家で正しい場所を見つけて、次の日学校で聞こえた音について発表するように言ったのです。

⑯その夜、エドワードはドキドキしていました。⑰一晩中エドワードは 星が水浴びしている音を聞こうと集中していました。⑱暗くなってからエドワードは裏庭に出してみました。⑲星は出ていましたが、見えたのはいくつかでした。でもエドワードが聞いたのは、車やバスが通りを行ったり来たりする音や遠くの鐘の音、たぶん教会か時計の音でした。⑳それから彼は空の上でジェット機が着陸のために低く飛ぶきれぎれの音を聞きました。

㉑家の中に入ると、たくさんの音が聞こえました。冷蔵庫のブーンとうなる音、お母さんがお皿を洗う音、誰も見ていなくてもつけてあるテレビの音。㉒それにお父さんがパイプをフツと吹く音や新聞をめくる音も聞きました。㉓でもこれらの音の中には驚くほどのものはありませんでした。

p. p. 329~330

①それから彼はあの男の人がよい聴く場所は自分の部屋にいる時だと言ったことを思い出しました。②それでお母さんが寝る時間よ、と言った時にはみんなをおいて自分の部屋に行けることが本当に嬉しくてたまりませんでした。もっと静かなところでもう一度試してみるのです。

③エドワードは寝床に入るまでに自分がたてる音にはっきりと気づいていました。そしてシーツを引っ張り上げて体に巻きつける時には、はっきりしたガサガサいう音がすることなどこれまで実際には聴いていなかった音を理解したのでした。

④それから静かに横たわって、彼は集中し始めました。⑤深い呼吸をつづけながら闇の中で聞きとろうとしました。⑥何も聞こえませんが⑦階下で両親が話している声がかくぐもって聞こえるだけです。⑧彼は指を耳に入れて、もう一度深い呼吸をしました。⑨まだ何も聞こえませんが、⑩彼は力と集中力をふるい起して星が水浴びする音を聴きたいと思いました。⑪そしてもう一度深呼吸をしたとき、突然彼の上の方と遠いところの両方のように思えるチリンチリンというような音がかすかに始まったのです。⑫はじめは、かれはその音を本当に聞いたとは思えなかったのです。だってそれははるかかなたの音のようだったからです。⑬それからだんだん大きくなっていきました。⑭それは滝で小さな泡が飛び散るようでもあり、セロファンがカサカサいうようでもあり、ソーダ水の炭酸がパチパチはじける音に耳を傾けたときのもでもありました。⑮でもそれはどの音でもありませんでした。それははるかに豊かな音で、これまでにだれも見つけない小さな楽器のオーケストラのような音でした。

⑯Edward は長い間注意深くそれを聞いていました。⑰時には遠くなったように思えたり、しばらくすると本当に聞こえたり、どうかすると同時に両方で聞こえたりしました。⑱エドワードが思い出せる最後の音は数えきれないほどの小さな鐘がヴァイオリンを弾くように輝いたり揺れたりするものでした。輝いては揺れ…輝いては揺れ…。

⑲朝目覚めた時、エドワードは学校に行き Chirp 先生に聞いたことを言いたくてたまらなくて、大急ぎで朝ご飯を食べ、バス停までの半分の道程を走ったのですが、時間が十分にあることに気がつきました。

㉑でもバスを待っている間に、他の考えが頭をよぎりました。㉒確かに音を聞いたけれど、いったいどんなふうにクラスのみんなに説明したらいいのだろうかということです。㉓演奏したり、歌ったりはできないし、とにかく正確ではないのです。㉔これには大変困ってしまって、学校に着くまで Chirp 先生が聞いた音をクラスで発表するようにいっただうかとても心配になりました。

p. p. 330~331 ㉕でも音楽の授業が始まると、Chirp 先生はクラス全体に、何人の人が魔法の音を聞ける聴く場所を見つけることができましたかという質問をしたのです。’

㉖エドワードが驚いたことに、たくさんの友達が聴く場所を見つけていました。

㉗‘じゃあ何人のひとがうまく 星の水浴びの音の音をきけたかしら?’

㉘少なくともクラスの半分は聴いていました。㉙そこで Chirp 先生はみんなに紙と色チョーク（クレヨン）のほうがわかりやすいかもしれません）を渡して、聴いた音を描くようにいいました。

⑩絵は想像したこともないような不思議なものでした。⑪私はそのうちのいくつかを見ましたが、ひとつとして同じものはなかったし、私はあなたが自分の指を耳に入れて深呼吸をしながら 10 数えると、突然音が作り始められることを知っています。⑫そして星の水浴びの音を聴かなかったとしても、絵の中で聴くことができるでしょう。⑬それはあなたが聞きたいと思ったこともない不思議な音楽なのです。⑭フルートやクラリネットやヴァイオリンよりもずっと不思議な…

P332

Here the Sound Go Around

①1980 年ごろ、カナダ国内を巡る展覧会を企画しているある美術館から私の図形楽譜と移動可能な音の彫像を出品するよう案内を受けました。②展覧会の紹介として、館長は印刷された招待状の代わりにフロッピーディスクを取り入れるというアイディアをもっていました。③*Here the Sounds Go around*はディスクの片面に収められました。④あなたは後に続く詩を読みながら、ターンテーブルの上で回るハイファイではないレコードを想像しなければなりません。

Here the sounds go round	ここで音は回る
Here the sounds go round	ここで音は回る
Here the sounds go round	ここで音は回る
the sounds go round	音は回る
the sounds go round	音は回る
I hear the sounds go round	私は音が回るのを聞く
I hear the sounds go round	私は音が回るのを聞く
I hear the sounds go round	私は音が回るのを聞く
go round	回る
go round	回る
go round and out	回る、そして出ていく
I hear the sounds go round and out	私は音が回って出ていくのを聞く
I hear the sounds go round and out, who know where	私は音が回って出ていくのを聞く、
into the air	空中へ
into your ear	あなたの耳の中へ
Do you hear?	聞こえていますか
Into your hair	あなたの髪の中へ
Is sound there?	音はそこにありますか
Beware	気をつけて
it' s everywhere	どこにでもありますよ
filling the air	空中を満たして
It' s here, it' s there	そこにも、ここにも
and there and here	ここにも、そこにも
throughout your room like perfume	香りのようにあなたの部屋を通して
it flies	音は飛んでいます
it clings	音はくっつきます
it tickles your skin	音はあなたの皮膚をくすぐります
Let me in	中に入れて
Into your head	あなたの頭の中に
Into your heart	あなたの心の中に
I am a part of you	私はあなた的一部分
when I' m here	私がここにいる時には
when my voice is here	私の声がここにあるときには
in your ear	あなたの耳の中に

I am here 私はここにいます
But when it' s not でもそうでないとき
and I stop... 私は止まります

I disappear. 私は消えてしまう

Pause fifteen seconds 15 秒の休止

Again the sound goes round 再び音が回る
Again the sound goes round 再び音が回る
Again the sound goes round 再び音が回る
 the sound goes round 音が回る
 the sound goes round 音が回る
I speak again and the sound goes round 私は再び話し、音は回る
I speak again and the sound goes round 私は再び話し、音は回る
 the sound goes round 音は回る
 the sound goes round 音は回る
I speak again and the sound goes round and out 私は再び話し、音は回る
I speak new sound 私は新しい音を話す
And send it out そして送り出す
I know not where 私はどこかわからない
into the air 空気のなかへ
Will it be heard? 聞こえますか
or overheard? それとも偶然に聞こえるでしょうか
It is absurd ばかげています
to from a word 言葉でいえば
to be heard 聞こえるのは
and overheard? そして偶然に聞こえるでしょうか
or not to be heard? それとも聞こえないでしょうか
To hear 聞くこと
to fear 心配すること
to interfere 邪魔をすること
to come uninvited 招かれざる到来
into your life あなたの生活の中へ
to disturb 邪魔をするために
to change your life あなたの生活を変えてしまうために

to make you hear あなたに聴かせるために
what cannot be seen 見えないものを
And if you could see me そして私を見たかもしれない
would it be true 真実だったかもしれない
the voice with the face 顔をもった声
or the face with the voice? それとも声の顔
The voice that you knew あなたが知っていた声
and the face that was new そして新しい顔だった
More untrue than true, I think 真実よりも真実でないものだと思ふ
better to hear 聞くよりもいい
to see with your ear. あなたの耳で見ることに

Then it is absurd だから馬鹿げているのです
to dare たぶんそうでしょう

to assume 当然のことです
 to presume そう思います
 to enter your room あなたの部屋に入ってきます
 to make you hear あなたに聞こえるように
 because I am here だから私はここにいます
 Yes I am here ええ、私はここにいます
 because you can hear me だってあなたは私を聞くことができますでしょう
 And I am seen but not seen そして私は見えるけれど、見えないのです
 Is sound seen? 音は見えますか
 sound seen 音は見えますか
 sound scenes 音の景色
 sounds seen 見える音
 but not scenes でも景色ではない
 sounds not scenes 音は風景ではないのです
 not seen 見えないのです
 sound all around そこらじゅうにある音
 and not seen そして見えなくて
 but seen でも見える
 because I am here なぜなら私はここにいるのです
 without being here いなくてもいるのです
 until I stop talking 私が話すのをやめるまで
 and when I stop talking... そして私が話すのをやめる時
 I disappear. 私は消えてしまいます

Pause ten seconds 10 秒の休止

Now what do you hear? さあ、何を聞いていますか

Pause ten seconds 10 秒の休止

I hear with my little ear... 私は小さな耳で聞きます

Pause fifteen seconds 15 秒の休止

Sounds everywhere どこにでもある音
 sounds all around そこらじゅうの音
 sounds up 音は上昇し
 sounds down 音は下降する
 sounds in the air and on the ground 空中の音と地上の音
 sounds before and sounds behind 前の音、後ろの音
 sounds in the mind 心の中の音
 sounds everywhere いたるところにある音
 sounds all around そこらじゅうにある音
 Is sound round? 音は回っていますか
 Sounds around 周囲の音
 Is sound around? 周囲に音がありますか
 Is sound round? 音は回りますか
 And can a sound そして音はさかさまになれますか
 be upside down?
 Can a sound be round? 音は回ることができますか
 Can it surround? それは取り巻くことができますか
 Can it go under ground? それは地下に潜ることができますか

through water 水をくぐれますか
through air 空中を飛んで行けますか
through a wire 電線を通れますか
through hair 髪の毛を通れますか
Is it there? そこにいますか
or here? ここにいますか
Can it disappear? 消えることができますか

And reappear? そしてまた出てくることができますか

Short pause 短い休止

And when it goes それが動き出すとき
where does it go? どこへ行くのですか

Short pause 短い休止

And when I leave そして私が去る時
where do I go? 私はどこへ行きますか

Pause ten seconds 10秒の休止

Again I reenter 再び私は入ってきます
and when I enter そして私が入ってくるとき
I' m at the center 私は中心にいます
You have let me in あなたは私を中に入れてくれた
through no door or window 扉からでもなく、窓からでもなく
or door or wall or ceiling or floor 扉や壁や天井や床ではなく
Perhaps I remain a visitor たぶん私は相変わらず訪問者です
listening to you... あなたを聞いています

Short pause 短い休止

Listening...聞いています

Short pause 短い休止

Overlooked... 見渡して

Short pause 短い休止

Overheard... ふと耳にする

Pause ten seconds 10秒の休止

And when I go, new sounds will come in
filling the space
to embrace you そして進み、新しい音がやってきて空間を満たし、あなたを抱きしめる
New sounds will come in 新しい音が入ってきて
and hum そしてブーンとうなり
and drum ドンドンふみならし

and run through your life あなたの生活を走り抜ける
Will they be nice その音は素敵ですか
or frightening? それとも恐ろしいですか
Will they bore? 退屈でしょうか

Let us listen some more: もう少し聞いてみましょう
Let us listen together 一緒に聞きましょう
to the weather 天候を
to the fire 炎を
or the furnace 暖炉を
to the door 扉を
or the floor 床を
to the trees 木々を
and the stars そして星を
and the breeze そよかぜを
and the water. 水の音を

Let us listen to the whole world of sound 世界中巡っている音の世界を聞きましょう
go round

the whole world of sound 世界中を巡っている音を
go round
the sound go round 音は回る
hear the sound go round 回っている音を聞きなさい
hear the sounds go round 回っている音を聞きなさい
here they go round and round ぐるぐる、ぐるぐる回っている音を聞きなさい
around around around...

I AM ALL SOUND 私は全ての音です
I am the sound that flies golden into the ears of those who
Listen. 私は聴いてくれた人の耳に飛び込むすばらしい音

I am the sound that creeps into the dreams of those who have forgotten to listen.
私は聴くことを忘れてしまった夢の中にそっと忍びこむ音

I am the sound that laughs 私は笑い声
the sound that weeps 泣き声
the sound that sounds 鳴り響く音
and the sound that waits. そして待っている音

I am the sound that is hidden behind the sound that is sounding.
私は鳴り響く音の後ろに隠れている音

I am the sound that contents 私は満たされた音
that presents 現実の音
that foments 誘いかける音
that torments やっかいな音
that dissents 対立する音
that prevents. 妨害する音

I am the sound that never ends, 私は決して終わらない音
that began before time and is heard only as silence. 時間よりも早く始り、静寂の中でだけ聞かれる

I am the sound that streams and flies 私は流れ、飛び回る音

and wiggles and dies そしてくねくねと動き、死んでしまう
and pops and run 跳ね上がり、走り
and bumps and hums ぶつかり、ざわめき
and carries the world at an incredible pace

through time and space. そして時間と空間を突き抜けてびっくりするほどの速度で動きまわる

And you will never そしてあなたは

Never 決して

Never 決して

see me. 私を見ることはありません

Pause 10seconds 10 秒間の休止

I am a scratchy voice
on a cheap old record. 私は安物の古いレコードの中のかすれた声です

I don' t care 私は気にしません（そんなことはどうでもいいのです）
I' m in the air. 私は空気の中にいます

see me. そしてあなたは決して、決して決して私を見ることはありません

Pause 10seconds 10 秒の休止

I am a scratchy voice on a cheap old record. 私は安い古レコードの中で、ガリガリいう声
I don' t care 私は気にしません
I' m in the air. 私は空気の中にいます